

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	サポートセンターとらいあんぐる可部		
○保護者評価実施期間	令和7年12月15日		～ 令和8年1月6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 13(兄弟児含む)
○従業者評価実施期間	令和7年12月15日		～ 令和8年1月5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・系列に就労継続支援A型、B型、地域密着型通所介護施設、カフェ、農園がある	・系列の就労継続支援A型、B型が行っている椎茸の袋詰めや産直市での販売準備、自然体験プログラムの一環である農園で収穫した野菜を地域密着型通所介護施設へ販売、カフェで店員体験などを行っている	・農園の手入れを行い、季節に応じた野菜などを育てるようになる ・長期休みにしか実施できていない為、土曜日にもできるように検討していく
2	・療育内容によって部屋の使い分けができるようになった	・静の活動は机上課題やSSTなどを行い、動の活動はサーキットトレーニングや風船バレーなど身体を使った活動をしている ・来所した児童がタイムスケジュールを済ますと、自由時間に身体を動かして遊べるといった見通しができるようになり、落ち着いて過ごせている	・サーキットトレーニングなどの用具を補充し、児童が飽きないように工夫していく ・療育活動で使用する物が置いてあるが、常に整理整頓を行い、わかりやすくする ・児童が片付けの際に困らないように置き場所を固定化する
3	・専門職による専門的な視点からのアプローチがある	・児童を接する中で嚔下や発音に関わる部分を判断し、それを補う個別活動や集団活動を考案、実施している ・実際に行っている場面を見て、職員もそれと同様の活動が徐々にできるようになっている ・送迎後に児童の様子や気付きを話し合い、記録に残し、次の活動に反映してしている	・考案した活動を定期的に療育活動に取り入れていく・話し合ったことを参考にして実施していく ・児童の日頃の様子を伝え、疑問に思ったことを質問していく ・保護者にも周知して、自宅でも療育の継続とアプローチの回数を増やしていく

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・ミーティングを行う時間を確保できていない	・支援前後に必要なことを話すことが多く、ミーティングという畏まった時間を設定すると緊張するのか意見が全く出ないことがあった為、開催をしていない現状がある	・意見を言いやすい内容、質問、問題提起の仕方などを事前に考えて進行を行い、ミーティングを定期的に開催していく
2	・長時間過ごす時や雨天時などの代替案が少ない ・療育活動内容が固定する傾向にある	・ほとんどの児童が自由時間に個々に遊びたいことがあり、職員もそれに沿っている為、療育活動までの時間を過ごしてしまう ・個別活動を行ってはいるが、まだ1人1人に確立されていない	・意見を言いやすい内容、質問、問題提起の仕方などを事前に考えて進行を行い、ミーティングを定期的に開催していく ・児童1人1人の個別活動を考え、実施していく ・療育内容を期限を決めて、職員1人1人に考えてもらい、実施していく
3	・保護者会の開催や、活動や外出の様子などの情報発信が不十分である	・保護者に連絡帳、送迎時、電話で様子を伝えるのみにしている	・保護者と定期的に面談を行い、日頃、撮っている写真を見てもらいながら様子を伝えていく ・保護者会の開催や情報ツールを実現できるように考えていく

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		公表日					回収数		
サポートセンターとらいあんぐる可部		令和8年2月11日					13名(兄弟児含む)		
		利用児童数					20名		
チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	13				・運動できるスペースもあり、十分に確保されている	運動系の療育活動時や自由時間に身体を動かしたい時など、今後も併用していきます	
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	10			3	・1人1人に適切に対応して頂けている		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	13				・子供にわかりやすく、靴や荷物を片付ける位置を配置してある	荷物置き棚は不足がある為、補充する、おもちゃの棚もわかりやすく整理する予定です	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせて空間となっていると思いますか。	13				・活動内容に合わせて、空間を使っている	活動内容に応じて場所設定をしています	
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	13				・子供が不快に思わないように、理解しやすい言葉や行動で対応している	日々の児童の様子を話し、対応をしています	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	13				・合っていると思う		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	13				・本人の現状を把握し、今できる事、長期的にやっていく事を分析して計画が作成されている	保護者や児童に聞き取りを行っています	
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	13				・本人のみならず、保護者への日々の報告や支援をしてもらっているので適切に設定されている ・成長に合わせて変えてくれている		
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	13						
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	13				・1ヶ月毎日の予定は様々で、子供が飽きない工夫がされている ・何種類かを用意してくれている	継続して行う活動、新しく行う活動など今後も考えていきます	
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	9	1		3	・公園や郊外に学習に行ったり、地域の子供達とも交流をしている	地域の公園やイベントに参加することで交流の機会を持ちます	
保護者 への 説明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	13				・詳しい説明があり、よく理解できた		
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	13						
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	9			4			
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	13				・利用後に今日の様子をご報告してもらい、次の支援に生かしてもらっている	保護者には送迎時、電話、連絡帳などで情報共有している	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	10	1		2			
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	11				2	・子供をよく理解し、対応してもらっている	
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。	5	2	2	4			
19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	13				・相談をすれば対応してもらえており、見守ってほしい時も対応してもらっている	保護者の希望があれば電話相談や来所していただいで面談をしています		

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	13				・日々、報告、伝達されている	保護者には送迎時、電話、連絡帳などで情報共有している
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	10			3	・	ホームページには自己評価の結果は載せている
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	12			1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	10			3		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	11			2		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	13					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	13					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	13				・先生を信頼し安心している	
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	12			1	・先生や利用している子供達とも仲が良く、一緒に活動できるのを楽しみにしている	土曜日や長期休みなど児童が経験値を高められる場所に外出し、クッキング、おやつ作りなどを今後も行っていきます
	29	事業所の支援に満足していますか。	13				・体調面や体力面にも配慮して頂き、子供に合った支援をしてもらっている	児童の様子と保護者からの情報を連絡帳、電話、送迎時にキャッチし、良い支援に繋げていきます

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		サポートセンターとらいあんぐる可部			公表日	令和8年2月11日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	1	利用人数や活動内容（机上課題・運動系）によって場所を分けたり、スペースを確保している	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	2		基準は満たしているが、児童の状態により、職員が足りないと感じる場面がある為、職員の適性と配置を考えていく
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		段差がなく、床には危険がないようにクッション性がある物を敷いている	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	2	机上課題や好きな玩具をしたい児童と身体を動かしたい児童を分けて過ごしており、掃除の時間を設けて児童も掃除をしている	玩具が入っている棚や活動で使用する棚の整理整頓をする
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		児童が1人になりたい時やクールダウンしたい時など個別の部屋で自由に過ごせるスペースがある	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	1		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		職員間で検討し、共有できるように伝えられている	細かい部分まで話す時間を確保していく
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		職員が意見を言いやすい環境になっており、改善に向けて動いている	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	4		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	1		研修の受講、参考になる文献を検討する
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		職員の意見を聞き、プログラムに反映し、その都度、公表している	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		保護者に送迎時、電話で聞き取りや書面で意向、要望の聞き取り書を提出してもらっている	今後は定期的に保護者と面談する機会を作っていく
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	1	職員で日々の様子について話し合い、情報共有をしている	職員全員参加のミーティングを定期的に開催する
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		職員で日々の様子について話し合い、情報共有をしている	職員全員参加のミーティングを定期的に開催する
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	2		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		職員全員に意見を聞き、活動の中に取り入れている	意見を出す職員が固定されている為、他の職員も出すように促しを強化していく
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		職員全員に意見を聞き、活動の中に取り入れている	意見を出す職員が固定されている為、他の職員も出すように促しを強化していく

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		個別活動と集団活動はそれぞれ組み合わせ提供しており、集団活動は事前に予定表に提示している活動を行っている	個別活動を児童に合わせた内容を増やし、実施していく
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		その日の担当職員を中心に流れやチーム分けを考え、それぞれの役割を確認している	事前にミーティングをする時間を取り、イメージを共有できるようにしておく
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		その日の児童の様子や気付いた点などを話し合い、次回の活動に生かしている	職員全員が振り返りができるように紙面にも残していく
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		個別支援記録を記入し、その時に気付いたこと、疑問に思った事はその日に話し合うようにしている	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		児童発達支援管理責任者、保育士で定期的に検討している	定期的にミーティングを開催し、職員全員で検討していく
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	6			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		自分の意見や気持ちを考えられる、気付ける、相手に伝えられるような活動を取り入れている	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		児童発達支援管理責任者や保育士が参加し、内容は書面化し、職員に周知している	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	3	気になる児童には学校を連携を取り、面談など情報共有している	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		学校別の下校表を確認し、スムーズに送迎ができるように日々、調整を行っている	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	2	4		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	3	4		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	5		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	3	土曜日や長期休み、早帰りなどの日など地域の公園に行ったりしている	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		6		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		保護者には送迎時や電話などで日々の様子を伝え、気になることはお互いに相談している	保護者が気軽に来所や電話で相談できるように書面を作成し、周知していく
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	2		
保護者への	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		見学者、新規利用児の契約時に書面を用いて行っている	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		保護者に送迎時、電話で聞き取りや書面で意向、要望の聞き取り書を提出してもらい、児童にも聞き取りを行っている	今後は定期的に保護者と面談する機会を作っていく
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		送迎時や来所時に保護者に説明し同意をいただいている	今後は定期的に保護者と面談する機会を作っていく
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		送迎時や電話で相談されたことは職員で共有、検討し、保護者に伝えるようにしている	今後は定期的に保護者と面談する機会を作っていく
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	4		

説明等	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		苦情があった場合は即座に職員に報告し、迅速に対応策を考え、保護者、児童に伝えている	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	3	3	毎月の利用予定表に毎日の療育内容や行事を記入し、保護者に配布している	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	1		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4	2		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5	1	新規契約時には保護者にを行い、利用児童は連絡帳、電話、送迎時に伝えてもらえる体制を整えている	日々の療育活動にも取り入れ、日常的にも考えていく
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	1	現在、食物アレルギーの児童は在籍していないが、契約時に保護者にアレルギーの有無をアセスメントシートや口頭で確認している	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	1		
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	2		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	1	ヒヤリハットが発生した場合は報告があり、対応策を改善策を検討している	療育後にヒヤリハットに該当することはないか、振り返りの時間を設け、報告書作成に繋げていく
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	1		
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6			現在、身体拘束に該当する児童は在籍していないが、どのような場面で必要なか再確認を行う	